

唄

心をすべて唄いあげないうちに
君はいなくなりました。

肩のところで短く切りそろえた髪に
かすかに聞こえる、遙か遠い背中への憧れ

うねるような重さを無意識のうちに曇散させ
それぞれの粒子に浮遊を与える その視線

心をすべて唄いあげないうちに
君はいなくなりました

いつだって、ほんとうはどこを見ているのだから、ちっともわからずじまいのまま
たたんでしまっ

紙の上でゆったりと踊るような、そしてうとうととするような 「ソ」の音の
うたうたい

君は知らない
今でもその唄はうたい継がれてているんだよ

(2004.1.3)